

こども自然みらい学びの場

「カマキリ博士の昆虫教室」を見学してきました。

2024年10月6日（日）に、牛田総合公園バラ園で開催されました「カマキリ博士の昆虫教室」の午前の部を見学してきました。内容は、カマキリから始まり、SDGsを楽しみながら学んでいく教室となっていました。参加者は約50名で、半数近くはリピーターの参加者、中には岡山から家族で来られている方や高校の先生も参加されていました。昆虫教室の先生は、「ダーウィンが来た！」の監修も行われている農学博士でもあり気象予報士でもある、渡部宏先生です。

当日は、森本代表の話から始まり、ケンランカマキリ、捕食中のムネアカハラビロカマキリ、そして風になびくように揺れる世界の枯葉カマキリの仲間のゴーストマンティスなどを実際に触らせてもらいながら説明をうけました。

そして、そのカマキリに寄生しているハリガネムシの役割を学びました。ハリガネムシは水生生物で、水の中で産卵・孵化し、カゲロウ・カワゲラなどに取り込まれ、シストとして休眠状態に入ります。それを捕食したカマキリなどの体内で活動を開始し、成虫になります。成虫となると、カマキリを操作して水辺に飛び込ませ、その中で産卵を行います。そして、水に飛び込んだカマキリは、川魚などのえさとなるという生物連鎖の話を、クイズ形式で正解者には虫カードを懸賞として、楽しみながら学びました。



その後の話は、ゴキブリについてです。恐竜より前から生息しているゴキブリですが、実は2億6千年前に同じ祖先から、カマキリとゴキブリに分かれ、進化していったとのこと。その面影はいくつか残っており、卵しょうという産卵方式や足のとげなどがあります。また、家庭では嫌われ者となっているゴキブリですが、家にいるのは全体の5%ほどで、そのほとんどは森林などの野外に生息しています。かれらは、森の掃除屋として枯れ木の分解を担当し、新しい森を再生させる役目を担っています。先生の話聞いて初めて、ハリガネムシもゴキブリも生態系をつなぐ重要な役割を担っていることを知り、大変勉強になると共に、彼らに対する認識も大きく変わりました。



講義のあとは、フィールドワークでカマキリ採集に行きました。みんなで採集ポイントに行き、カマキリの高い所に昇る習性を参考に、当日はハラビロカマキリ2匹を捕まえることができました。

この教室の開催について先生が熱く語られていたのは、子供を預けるタイプの教室では、子供たちの一時的な愉しさで終わってしまう。親と一緒に受講してもらって、親に意識を変えてもらうことが大切だと仰っておられました。特に、ハリガネムシとゴキブリの話は、生物連鎖における彼らの役割を知らずに、「汚い、気持ち悪い」と存在を否定してしまっている方が多いので、彼らがいなくなることで人間の生活に多大な影響があることを知り、すべての生物に役割があることを認識して欲しいと

のことでした。私自身、先生が目論見通り、生物全てが役割をもって存在しており、それぞれが重要な役割を果たしていることを認識させて頂き、彼らに対する先入観をなくすことができました。

当日の午後からは、ランチをはさんで、昆虫工作タイム、岡本先生による「親子釣り教室」なども開催されました。

本教室は、森本さんの主催で年に3回ほど開催されております。ご興味のある方は、是非親子でご参加ください！（大塚）